

一般質問発言通告書

発言順位 5 番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和元年11月26日

三島市議会議長 大房正治様

三島市議会議員 2 番 石井真人



質問事項 1	三島駅東街区再開発の広域健康医療拠点について
具体的内容	三島駅東街区再開発事業では、三島駅周辺グランドデザイン（平成24年）や市民意識調査の結果を踏まえ開発コンセプトを「広域健康医療拠点」と掲げている。そこで、健康や医療に関し現状と比較し再開発後にどのように広域拠点として強化されるのか以下の点を伺う。
1	市民意識調査において三島市の将来像に関する質問に対し毎年3割以上の三島市民が「保健や医療、福祉の充実した優しさのある都市」を第1位として答えている。一方で、休日・夜間救急医療体制を不満に上げる市民も多く24%に及んでいる。事業推進にあたり、市民意識調査に対してアンケート結果の深堀をしているのか。再開発事業により満足度を高め、不満足を解決するために具体的にどのような「広域健康医療拠点」を予定しているのか。
2	アスマチ三島の提案書に示されている3階の医療スペース985㎡について実際どのような施設になるのか。施設内容については三島市医師会とどのような調整をしているのか。
3	現在、三島及び周辺地域の広域救急医療拠点となっている三島市医師会及び三島メディカルセンターについて施設が老朽化している。施設の新設に合わせ、保健センターや社会福祉会館など老朽化している健康と福祉の公共施設を一元化することで平常時、救急時、災害時の体制強化につながる新たな広域健康医療福祉拠点の検討をしてはどうか。
4	広域健康医療拠点を市内に2か所整備することは二重投資になる可能性があり優先順位をつけて、駅前再開発よりも先にメディカルセンターの移設を検討してはどうか。検討結果によっては、駅前再開発のコンセプトにある健康と医療を外し見直してはどうか。
質問事項 2	職員退職手当基金と本市の財政運営について
具体的内容	平成14年度に三島市職員退職手当基金条例を制定し、平成14～30年度に渡り17年間基金の積み立てを行っている。しかし、25年後にあたる令和26年度までの退職金の総支給額が約100億円と見込まれる中で、基金の残金は現在205万円しかなく、職員一人当たりの平均退職金支給額の約2,400万円にも遠く及ばない金額となっている。そこで、以下の点を伺う。
1. 職員退職手当基金	
(1)	豊岡市政が始まった平成24年度からの職員退職手当基金の積立額は年平均11万円と大幅に減少（8年間の総積立額93万円）し、当初1億7,111万円あった基金を205万円まで取り崩した理由は、（豊岡市政以前の平成14～23年度の9年間の総積立額4億7,111万円、年平均5,200万円）
(2)	基金条例の第6条には、確実な繰戻し方法、期間と利率を定めるとされているが、いつ取り崩した基金を繰戻す予定になっているのか。
2. 今後の財政運営の考え方	
	駅前再開発やファシリティマネジメント（市庁舎の建て替え等）など巨額投資が見込まれ今まで以上に財政負担が厳しくなる中でどのように基金を運用していくのか。なぜ職員退職手当基金の積み立てをせず同じ人件費にあたる三島市特別職職員の期末手当を3年連続して増額しているのか。今後の財政運営の考え方は。